



社協だより

# よしかわ

〈発行〉  
令和6年3月  
芳川地区  
社会福祉協議会

## 会長挨拶



芳川地区社協  
支会長 鈴木 嗣

村井町町会会長の鈴木嗣(あきら)です。令和5年4月から芳川地区社協支会長を担当しています。日頃、社会福祉協議会の活動にご支援、ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

令和5年度は新型コロナウイルスの影響も限定的になってきたことから、当協議会関連の活動も少しずつ再開することができました。また、こうした事業の推進にあたっては、関係する諸団

体の皆さんによる日頃の活動とご支援の賜物と感謝いたします。

施設関係の話をさせていただくと、ご承知のように、昨年7月に「イオンタウン松本村井」の二階に、みなみ福祉ひろばと子どもプラザが併設された「あんさんぶる」がオープンしました。

このみなみ福祉ひろばと、従来からある福祉ひろばでは、各団体が当番制でほぼ毎月ふれあい健康教室を開催し、毎回異なったテーマでイベントを実施しています。また、ふれあい健康教室以外にも種々のイベントを開催しています。

ぜひ立ち寄ってみてください。(詳細は毎月の芳川ひろばだよりをご覧ください。)

社会福祉協議会に関する各団体の活動は、地域福祉の促進、高齢者福祉の推進、地域づくりの推進等多岐にわたっており、こうした事業や活動を通じて、地域の皆さんにより健康で安心して過ごせる環境の提供や楽しいイベントの開催等今後も取り組んでまいります。引き続きのご支援、ご協力をお願いいたします。



ふれあい健康教室の様子(あんさんぶる)

## ごあいさつ

芳川地区生活支援員

吉澤 奈津美



やわらかな春風に心華やく季節となりました。地区生活支援員は、松本市内35地区の地域づくりセンターに配置され、地域の皆様の身近な相談窓口として活動しています。

私は令和4年度に芳川地区に配属され、今年で早3年目に入りました。

まずは顔を覚えてもらえるよう、福祉ひろばや、地域活動の場にお邪魔し、様々な情報提供や体操、相談業務等をさせていただいています。行く先々で温かく迎え入れていただき、地区の皆様には心から感謝しております。

昨年度は、日常生活の相談事だけでなく、支え合いや支援活動への相談事も増え、体操サークル・個人サロンの立上げや、子ども食堂の実施などに関わり、高齢者から子どもまで、幅広い年代の居場所づくりが出来ました。

また、健康フェスタでは松本市社会福祉協議会でブースを出し、大勢の方に車いすやアイマスク等の福祉体験をしていただき、とても好評でした。

今年度も、地域の皆様により身近な存在になれるよう活動しますので、気軽にお声がけください。



# 芳川地域づくりニュース

〈発行〉  
令和6年3月  
芳川  
地域づくり協議会

ものに改善していくことや新たな取組みにも繋がっています。

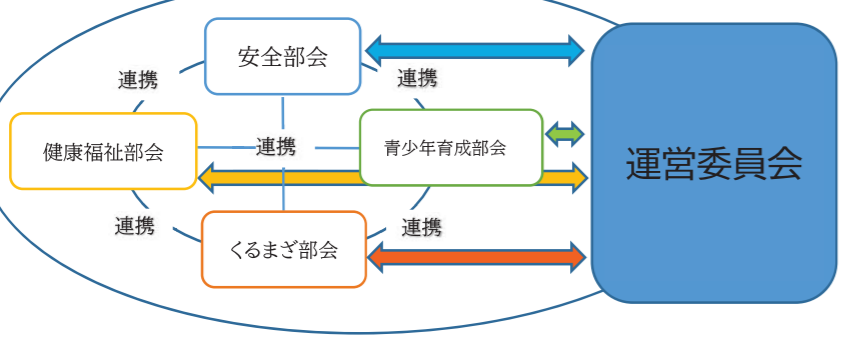
年度途中からは運営委員会に各町会長にも出席

【令和5年度の取組み】  
昨年度、地域づくり協議会の体制見直しを実施し、令和5年度は新たな体制でスタートしました。

これまでどの大きな違いは、年に一度開催していた「運営委員会」を毎月の定期開催としたことです。協議会三役、各部長、地域づくりセンター職員が地区内の課題を共有、解決方策を探るなど、地域のつながりに寄与する事業の実施について協議しています。

これにより、以前よりも各部署の活動状況を共有しやすくなりました。また、取組み分野が多様な視点から意見を出し合うことで、継続してきた事業の内容をよりよい

体制イメージ



## 協議会で取組む事業

- \* 災害等に備えた安全な地域づくり
- \* 安心して暮らせる健康と福祉の地域づくり
- \* 子どもの健全育成と活力のある地域づくり
- \* 生活環境の良好な地域づくり
- \* 歴史を尊び、文化を育む地域づくり



令和5年度に取組んだ事業を簡単に紹介いたします。

を依頼しました。各町会長が協議の場にいることで、団体と町会それぞれの取組みが見え、町会長から団体への助言や協力体制が強化できつつあること、各団体が町会の様子や課題を共有することで互いにニーズの把握がし易くなるなど、活発な協議の場となっています。

## 【安全部会】

地域の防災力向上を目指し、安全部会を構成する地区内の各団体が各々の活動に沿った形で防災・減災研修を実施しました。防災研修を実施するにあたり、近年日本各地で発生した災害で一番先に問題となったとされる「災害時のトイレ対策」を初回の研修テーマとしました。

講師には、下諏訪町の防災士で構成する「防災ネットワーク」しもすわ」の二人を講師にお迎えし、「防災漫才」で「トイレ問題」「災害伝言ダイヤル」の活用による家族等と連絡をとる方法など、災害時に役立つ情報を講演いただき、笑いの中にも深い学びのある充実した研修となりました。

この他にも、松本大学の尻無浜教授による講演「高めよ、防災力」その時に備えて」。避難所運営について研修するため、防災士



「防災」をテーマに開催した学習会

の指導によるHUG(避難所運営ゲーム)など行いました。

また、避難所運営についての研修では、地区内4か所の指定避難所運営委員が、運営するうえでの課題を話し合い「各避難所運営マニュアル」づくりが必要と意見が一致しました。

そこで、安全部会で素案を作り、次年度は各避難所の状況に合わせたマニュアルづくり、運営訓練を実施していく計画です。芳川地区総合防災訓練は、「防災フェスタ」として、より多くの方に防災に関する体験をしていただく機会となりました。

【健康・福祉部会】

健康・福祉部会では、地域づくり協議会発足当時から継続実施してきた「楽笑レクゲームの集い」を、過去に参加された方からのアンケートに寄せられていた意見を踏まえ、開催時期を10月に繰り上げて実施しました。

また、事業の内容についても今年度は従来の運動を中心とした内容から、部会に所属する各種団体の活動を地域の皆さんに知っていただく機会とした「健康フェスタ」に変えて実施しました。



日開催を計画しています。この他に「福祉連絡先一覧」の内容を見直しました。新しいものは、新年度に配布します。

【青少年育成部会】

今年度、青少年育成部会として事業等実施はありませんでした。が、これまで実施してきた事業について見直す期間としました。

芳川地区は、市内でも二番目に人口が多く、15歳までは2,521人(令和5年10月現在)と地区全体の14.5%を占めています。このため地区全体で事業を行うよりも、町会単

位の充実が先ではないかという結論に至り、青少年育成部会としては、町会の要請があれば伝統行事のノウハウを伝承、支援、他部会で実施する事業にお子

さんたちが参加していただけるよう周知するなど後方支援をしていくことにしました。

一方、当事者であるお子さんたちと話をすると、地域に対して「無関心」ではなく、もつと地域に関わりたいという希望を持っていることが分かりました。コロナが5類になり町会や地区の行事が再開されたことも嬉しいという声を聞き、新年度は地域のお子さんが地域の大人と関りをもつことができるような環境づくりを検討していきます。



【くるまぎ部会】

くるまぎ部会は、これまでの環境部会と歴史文化・振興部会が担っていた分野を引き継ぐとともに、新たな団体や、団体に属さない人でも対話の場に参加しやすくするために今年度新たに設けられた部会です。

今年度の取組みは、地区の歴史として継承していきたい「水路」について共有、地域の伝統産業である「野溝箒」の継承事業について学ぶことから始めました。かつての水路名など、今では資料も少なく、地名の変更などにより昔のことが分からなくなっていることや、野溝箒の作り手を増やすための取組みから「野溝箒振興会」が発足したことなど紹介されました。

その他にも地域の課題を話し合う中で、地域農業を守ることに話題となりました。そこで、運営委員会に諮



り地域づくり協議会として地域農業を応援することを目的に「農業体験」を開催し、初夏から秋にかけて小さなお子さんや、働き世代の方々が大勢ご参加いただきました。

次年度も、地域の課題を共有し、地域づくり協議会で柔軟な対応ができるよう対話の機会を設けていきたいと考えています。

地域づくりセンター

強化モデル事業終了

芳川地区地域づくりセンターは、令和3年度から地域づくりセンターの支援力向上を目的とした「地域づくりセンター強化モデル地区」に指定され、3年間地区重点課題の解決に向けた取組みが成されました。

このモデル事業は、時限的取組みであり、令和5年度末をもって芳川地区はモデル地区としての事業が終了しました。

なお、地区担当保健師の駐在化はモデル地区事業終了後も継続されます。この事業における主な取り組みについてご紹介します。

【地域自治支援交付金

提案事業】

これまでの制度では交付金の対象となりにくかったNPO・市民活動団体、若

地域自治支援交付金提案事業名	団体名
芳川地域づくり協力隊活動事業(重点課題)	芳川地域づくり協力隊
ソフトでつなぐ地域の絆	平田ソフトボール友和会
中下公園花いっぱい運動 他	中下益々美化委員会HHL
芳川地区を100歳体操で元気にする	村井町健康クラブ
軽スポーツで健康増進	ひまわり軽スポーツの会
美芳町町内美化活動	美芳町を美しくする会
地域を笑顔に！花いっぱいのまち「花植え活動」	筑摩野サッカースポーツ少年団
誰もが安心できるまちへの一歩 他	ラーニングビレッジえむ
ふるさと講座「よりあいて」	ふるさと講座「よりあいて」

者による有志グループ等、新たな活動への支援を拡充するための交付金については、3年間で地区内9団体が交付金を活用して地域活動を実施しました。各団体で取組まれた活動は、それぞれ自主運営に

より現在も活動が継続されています。

なお、芳川地域づくり協力隊が実施してきた「芳川まるっと青空市」など交流事業の一部は、地域づくり協議会が引き継ぎ、「野溝箒プロジェクト」は、「野溝箒振興会」として独立し活動を継続していきます。

地域づくり協議会が引き継いだ「芳川まるっと青空市」については、令和5年度に地域づくり協議会の事業、「防災フェスタ」「健康フェスタ」と同日開催、それぞれの事業の来場者数も普段と比べて多く、また、これまで参加されていなかった世代が気軽に参加していただけた、など一定の効果がありました。

3年間、地域づくり協力隊が取組んだ事業の手法など参考にして地域づくり協議会の事業に反映していきます。



【人員増による効果】

地域づくりセンター職員が増員されたことで、地域づくりアンケートの実施、結果から地域づくり協議会発足当時に実施したアンケートとの比較や地域のニーズ調査ができました。また、急務であった地域づくり協議会体制見直しに進捗がありました。

地域づくり協議会

LINE開設

地域づくり協議会のLINE公式アカウント「芳川かわら版」をつくり、4月から配信を始めます！

目的は、地域の皆さんの防災力向上です。今年元旦に発生した能登半島地震を受け、同規模の地震が松本でも起きたら...と対策を考える中、町会の防災備蓄には限界があり、発災から一週間は個人、家庭で命が守れる備えを発信することにしました。

LINEを使って少しずつ防災情報を発信し、地域の方からお知恵をいただき、共有していきたいと思えます。地域づくり協議会が関わるイベント情報もお伝えします。

まずは友だち登録をお願いします！

登録はこちら！

